

連盟だより

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

Japan Federation for Mental Health and Welfare



2026-2. 20

通刊 82 号

厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 課長に就任して（ご挨拶）

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課
課長

海老名英治



公益社団法人日本精神保健福祉連盟の会員各位及び関係者の皆さまには、日頃より精神保健医療福祉の向上にご尽力いただくとともに、各施策の推進にご理解とご協力をいただいていることに心よりお礼申し上げます。また、令和7年7月に精神・障害保健課長に着任後、皆さまのご指導を賜っておりますこと、深く感謝申し上げます。

さて、令和7年12月に「医療法等の一部を改正する法律」が国会で成立し、公布されました。この改正により、地域医療構想については、2040年頃を見据えた医療提供体制を確保するため、精神医療を含む形で病床のみならず入院・外来・在宅医療、介護との連携を含む将来の医療提供体制全体の構想とするとともに、地域医療構想調整会議の構成員として市町村を明確化し、在宅医療や介護との連携等を議題とする場合の参画を求めることとなりました。今後、令和9年度以降の施行に向けて、関係者の皆さまのご意見を伺いながら、準備を進めてまいります。

また、「高次脳機能障害者支援法」も令和7年12月に国会で成立し、公布されました。高次脳機能障害は外形上判断しづらく、その特性の理解も進んでいない等の理由で、患者と家族が適切な支援を受けることができず、日常生活や社会生活に困難を抱えているとの指摘があることを踏まえ、高次脳機能障害への理解を促進するとともに、高次脳機能障害者の自立及び社会参加のための生活全般にわたる支援を、どの地域でも、あらゆる段階で、切れ目なく受けられるようにすることを旨としております。令和8年4月より施行となりますので、関係者の皆さまのご協力を得ながら、取組を進めてまいります。

こうした法律の動きの他、令和9年度を始期とする「第8期障害福祉計画」の策定に向けて、基本方針の見直しも進めております。この中では、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を

さらに推し進めることとし、システムの理念の明確化とその実現に向け、市町村における相談及び援助の体制整備や、それに対する都道府県における体制整備を掲げております。そして、相談支援体制の構築や障害福祉サービスの整備等の地域の基盤整備が、退院患者の再入院率の改善に寄与すると考えられることを踏まえ、地域平均生活日数と併せて評価する指標として、退院患者の精神病床への30日以上再入院率を成果目標として新たに設けました。また、これまでもメンタルヘルスについて国民の理解促進を図る「心のサポーター」について、その養成に取り組んでまいりましたが、令和15年度末までに100万人以上とするという成果目標も新たに設けたところです。こうした取組を進め、成果目標に近づくためには、関係者の皆さまのご理解、ご協力が重要と考えております。

依存症対策では、令和8年度を始期とする第3期の「アルコール健康障害対策推進基本計画」の策定を進めております。特に、基本計画の重点課題として、これまでのアルコール健康障害の発生予防、アルコール健康障害の進行・重症化予防、再発予防・回復支援の2点に、新たにアルコール健康障害の当事者及びその家族（こどもなど）への支援を加え再編することとしております。具体的には、相談支援における児童福祉部門等との連携の強化、支援者や児童福祉部門関係者等に対する研修の推進やアルコール関連問題当事者の健康状態やこどもへの影響等に関する調査の推進などを行うこととしております。

精神保健医療福祉については、この他にも重要な課題は数多くあると認識しております。いずれの課題にも精一杯取り組んでまいりますので、引き続き、皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆さまの益々のご発展を祈念申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

第72回精神保健福祉全国大会が開催される

公益社団法人日本精神保健福祉連盟 事務局長 加賀山成久

第72回精神保健福祉全国大会は、令和7年12月7日、鳥取県米子市内の米子市公会堂にて開催されました。

本大会は、厚生労働省及び公益社団法人日本精神保健福祉連盟が主催し、鳥取県、米子市、鳥取県精神保健福祉協会及び公益社団法人日本精神科病院協会鳥取県支部が共催しました。さらに、最高裁判所や内閣府をはじめとする関係官公庁、多数の関係ある全国組織・団体並びに栃木県内の組織・団体の方々から後援を頂きました。

本大会は、「心の変調・障がいを知り、共に生きる～誰もが安心して自分らしく暮らすことのできる共生社会の実現～」をテーマとし、大会趣旨は、「わたしたちは、障がいのある人もない人も、お互いに人格と個性を尊重し、障がいの特性に応じた必要な配慮や支援を行いながら、地域社会の中で誰もが安心して自分らしく生活することができる社会の実現を目指し、障害福祉サービスだけでなく、情報アクセス・コミュニケーション支援、文化・芸術活動など、福祉の枠にとらわれない幅広い分野の取組を進めています。誰もが暮らしやすい地域社会を作ること」を目的とした「あいサポート運動」発祥の地である鳥取県において、共に生きる社会の実現のため何が必要かを本大会に参加する全国の精神保健福祉関係者並びに地域の方々との視野に考え、共有できる場にしたいと考えます。また、大会を通じて精神保健福祉に関する理解を深め、正しい知識の普及と精神保健福祉施策の推進を図ってまいります」ことといたしました。

午前10時から始まりました第1部の記念式典においては、前回開催地の栃木県から「心を開く鍵」の引継ぎが行われた後、大会実行委員会会長（藤井喜臣 鳥取県精神保健福祉協会会長）による開会の言葉に続き、日本精神保健福祉連盟会長（鹿島晴雄）



による式辞、厚生労働大臣、米子市長による挨拶がございました。その後、精神保健福祉事業功労者表彰が行

われ、個人54名及び13団体に厚生労働大臣表彰状を授与しました。次いで日本精神保健福祉連盟会長表彰が行われました。受賞者の方々には、心からお慶びを申し上げますとともに、長年にわたる御努力と御功績に衷心から敬意を表する次第であります。表彰式の後、謝辞、祝辞、次回開催県である富山県から挨拶が行われました。

第2部の記念講演等では、最初に記念講演として、講師に国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の張賢徳所長をお迎えし、「メンタルヘルスにとって 一番大事なもの」について、講演をいただきました。

午餐会を挟んで、午後には、冒頭、平井鳥取県知事から挨拶を頂戴した後、ウェルカムパフォーマンスとして山陰少年少女合唱団リトルフェニックスによる歌声が披露され、続いて依存症フォーラムとして、「基調講演、ゲストトーク、体験談発表、シンポジウム」が行われ、さらに、お楽しみ抽選会が行われました。

最後に、大会実行委員会委員の小林ゆう（鳥取県精神保健福祉協会副会長）から閉会の挨拶があり、盛況のうちに幕を閉じました。

本大会の開催に当たり、大会実行委員会の藤井会長はじめ鳥取県、米子市並びに関係団体の皆様方には一方ならぬ御尽力を賜りました。心から厚く御礼申し上げます。



令和7年度精神保健福祉事業功労者表彰

厚生労働大臣表彰受賞者 個人（都道府県推薦）（37名）

青森県	谷地森 康二 十和田市立中央病院（医師）	愛知県	齋藤 隆司 東春病院（医師）
岩手県	上田 雅道 医療法人社団創生会おとめがわ病院（医師）	愛知県	大瀧 和男 医療法人和音会かずおメンタルクリニック（医師）
宮城県	高橋 千代子 山元町役場（保健師）	三重県	森 徹雄 社会福祉法人ジェイエイみえ会（施設職員）
宮城県	安田 重 一般社団法人安田博愛会安田病院（医師）	大阪府	前久保 邦昭 前久保クリニック（医師）
山形県	鈴木 治 特定非営利活動法人米沢ひまわりの家（団体職員）	大阪府	眞城 英孝 医療法人清楓会楓こころのホスピタル（医師）
福島県	大野 悦人 医療法人社団愛恵会大野診療所（医師）	兵庫県	涌波 和信 公益社団法人兵庫県精神福祉 家族会連合会（団体役員）
茨城県	栗田 裕文 医療法人社団有朋会栗田病院（医師）	奈良県	的場 宏好 奈良県断酒連合会奈良若草断酒会（元副会長）
栃木県	高野 謙二 特定医療法人慈全会那須高原病院（医師）	島根県	長田 洋子 隠岐広域連立隠岐病院（看護師）
千葉県	新村 ヨシオ 医療法人社団全生会江戸川病院（医師）	岡山県	秋山 千広 公益財団法人慈圭会慈圭病院（看護師）
千葉県	池崎 明 医療法人社団心和会八千代病院（医師）	広島県	甲田 実 三原断酒友の会（団体職員）
神奈川県	山田 芳輝 あかりクリニック（医師）	山口県	田村 和恵 医療法人仁保病院（看護師）
神奈川県	長谷川 剛 公益財団法人積善会曾我病院（医師）	徳島県	田岡 雅世 社会医療法人養生園TAOKAこころ の医療センター（医師）
新潟県	小熊 隆夫 医療法人青松会松浜病院（医師）	愛媛県	住友 裕美 社会福祉法人花咲会（団体役員）
富山県	中川 佳子 富山市メンタルヘルスサポーター連 絡会（メンタルヘルスサポーター）	福岡県	本間 五郎 医療法人寿永会本間病院（医師）
石川県	新谷 紀子 石川県立こころの病院（精神保健福祉士）	佐賀県	森田 由佐子 鹿陽会（会長）
福井県	堀江 端 こころの森病院（医師）	熊本県	相澤 明憲 社会医療法人佐藤会弓削病院（医師）
山梨県	上田 譲二 特定医療法人南山会峡西病院（精神保健福祉士）	宮崎県	槇 英俊 社会医療法人同心会古賀総合病院（医師）
長野県	大西 直樹 J A長野厚生連佐久総合病院（医師）	沖縄県	友利 悦子 公益社団法人沖縄県看護協会（保健師）
静岡県	澤野 文彦 公益財団法人復康会（精神保健福祉士）		

厚生労働大臣表彰受賞者 個人（公益社団法人日本精神保健福祉連盟推薦）（17名）

北海道	花井 忠雄 特定医療法人さっぽろ悠心の郷ときわ病院（医師）	兵庫県	本西 正道 医療法人好寿会美原病院（医師）
北海道	宗 代次 特定医療法人社団慈藻会平松記念病院（医師）	奈良県	南 尚希 医療法人南風会万葉クリニック（医師）
宮城県	石井 洋 医療法人仁泉会川崎こころ病院（院長）	香川県	竹内 真弥 医療法人社団五色会こころの医療セ ンター五色台（事務）
群馬県	高木 博敬 医療法人大和会西毛病院（医師）	香川県	篠原 亘広 医療法人社団三愛会三船病院（看護師）
群馬県	中島 佳子 医療法人社団山崎会サンピエール病 院（リハビリ助手兼事務）	福岡県	松井 隆明 三善病院（医師）
神奈川県	吉澤 弘 医療法人弘徳会愛光病院（看護師）	福岡県	植田 佳子 医療法人恵和会田川慈恵病院（栄養科科長管理栄養士）
石川県	表 秀雄 医療法人社団澄鈴会（准看護師）	沖縄県	仲本 晴男 医療法人社団輪仁会田崎病院（医師）
山梨県	成澤 玲子 アトリエレイ主宰（自営業）	沖縄県	前川 敏彦 医療法人天仁会天久台病院（医師）
愛知県	小栗 政義 公益社団法人全日本断酒連盟（参与）		

厚生労働大臣表彰受賞者 団体（都道府県推薦）（10団体）

群馬県	群馬県自閉症協会 【会長】 高森 勉	島根県	精神保健ボランティアさくらんぼの会 【会長】 岡田 光江
埼玉県	社会福祉法人晴典会春日部社会参加センター 【理事長】 川瀬 典夫	広島県	東区中山女性会 【会長】 今村 信子
千葉県	特定非営利活動法人千葉県精神障害者自立支援事業協会 【理事長】 飯ヶ谷 徹平	愛媛県	内子町精神保健ボランティアグループでんでんむし 【会長】 野中 恵美子
福井県	福井県精神保健福祉協会 【会長】 小坂 浩隆	佐賀県	社会福祉法人佐賀いのちの電話 【理事長】 松永 啓介
岐阜県	特定非営利活動法人東濃やまなみ会 【理事長】 柘植 昭和	宮崎県	椎葉村聴きミミ隊 山中 祐美子

厚生労働大臣表彰受賞者 団体（公益社団法人日本精神保健福祉連盟推薦）（3団体）

群馬県	公益社団法人日本てんかん協会群馬県支部 【支部長】 清水 信三	福岡県	社会福祉法人つばめ福祉会 【理事長】 西村 隆之
岡山県	特定非営利活動法人岡山県断酒新生会 【理事長】 藤川 泰三		

公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞者 個人（35名）

青森県	船木 昭夫 青森大学社会学部（大学教授・精神保健福祉士）	大阪府	野原 潤 NPO法人あず（精神保健福祉士）
宮城県	氏家 靖浩 学校法人朴沢学園仙台大学（教授）	鳥取県	青戸 忍 医療法人養和会養和病院（精神保健福祉士兼事務）
福島県	若松 幸枝 社会福祉法人いわき福音協会 指定障害者支援施設はまなす荘（看護師）	鳥取県	渡邊 要一郎 特定非営利活動法人鳥取県断酒会（事務局長）
群馬県	防村 弘子 医療法人社団山崎会サンピエール病院（准看護師）	島根県	山田 富久子 公益社団法人島根県断酒新生会（副理事長）
埼玉県	福田 正人 群馬大学（名誉教授）	岡山県	高森 政道 特定非営利活動法人岡山県津山断酒新生会（理事長）
埼玉県	中村 光範 医療法人慈光会東武丸山病院（看護師）	広島県	中川 充之 広島刑務所（国家公務員（法務技官）看護師長）
埼玉県	大山 美香子 志木北口クリニック（医師）	広島県	桃谷 竹信 特定非営利活動法人広島断酒ふたば会（会長）
千葉県	樋口 英二郎 公益財団法人復光会総武病院（医師）	山口県	磯野 和将 特定非営利活動法人山口県断酒会（理事）
東京都	上田 容子 医療法人社団美帆会神楽坂ストレスクリニック（医師）	香川県	下森 敦子 医療法人社団五色会こころの医療セ ンター五色台（調理師）
神奈川県	大間 美保 社会福祉法人湘南福祉協会総合病院 湘南病院（管理栄養士）	香川県	藤野 宣久 医療法人社団玉藻会馬場病院（看護師）
富山県	石倉 直美 医療法人社団和敬会谷野呉山病院（精神保健福祉士）	香川県	平尾 晋一 高松刑務所（国家公務員（法務事務官）准看護師）
石川県	岡田 淳夫 社会医療法人財団松原愛育会松原病院（医師）	香川県	中井 省吾 医療法人社団三愛会三船病院（看護師）
石川県	坂上 章 石川県立こころの病院（看護師）	香川県	野崎 房子 医療法人社団光風会三光病院（准看護師）
長野県	橋爪 圭三 社会医療法人栗山会飯田病院（看護師）	福岡県	平野 千恵子 久留米市役所（母子訪問指導員）（保健師）
静岡県	石野 るり子 医療法人社団宗美会清水駿府病院（看護師）	大分県	白坂 真男 医療法人社団淵野会緑ヶ丘保養園（医師）
三重県	森 章信 JA三重厚生連鈴鹿厚生病院（看護師）	宮崎県	富士本 羊子 特定医療法人浩洋会田中病院（精神保健福祉士）
大阪府	向井 直彦 医療法人河崎会水間病院（精神保健福祉士兼事務）	沖縄県	宮島 英一 医療法人天仁会クリニックおもろまち（医師）
大阪府	庵尾 正彦 医療法人田村病院（看護師）		

公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞者 団体（4団体）

奈良県	特定非営利活動法人なゆたの会 【理事長】 松村 和彦	愛媛県	宇和島断酒会 【会長】 山口 順也
広島県	尾道断酒うず潮会 【会長】 阪本 明男	福岡県	特定非営利活動法人つくしクローバー会 【代表理事】 久保田 祥平

全国障害者スポーツ大会と精神障害

精神障がい者スポーツ推進委員会 委員 田所 淳子

1 全国障害者スポーツ大会

障害のある方を対象に、わが国では平成12年から全国障害者スポーツ大会が開催されています。この大会は、国（スポーツ庁）、公益財団法人日本パラスポーツ協会、開催地都道府県が主催団体であり、秋の国民スポーツ大会後に3日間、開催されます。選手・役員合計6,000人が参加する、国内最大規模の障害者スポーツ事業です。

大会競技は都道府県・指定都市対抗の形式で行われ、正式競技として個人競技7種目（陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ポッチャ、ボウリング）、団体競技7種目（バスケットボール、車いすバスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、バレーボール、サッカー、フットソフトボール）が定められています。規則に定められていない競技種目であっても、広く障害者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについては、主催者間で協議のうえ「オープン競技」として実施することができます。

2 精神障害者の大会参加の歴史

精神障害者が参加できる種目は現在、団体競技バレーボール（平成14年～オープン競技、平成20年～正式競技）、個人競技卓球（令和元年～正式競技）の2種目です。

団体競技は全国6ブロック大会の優勝都道府県・指定都市チームが全国大会に出場することができます。個人競技の卓球は、精神障害者については都道府県・指定都市で選考あるいは予選大会を経た男女各1名が出場することができます。

大会での競技は2～3日間にわたり行われ、予選大会を勝ち抜いてきた選手たちが全力で試合に挑ん



でおり、観客や関係者は大きな感動を得ることができます。令和7年度滋賀県での全国大会では大会事務局により試合がネット配信され、遠隔地でもリアルタイムで観戦することができました。

3 精神障害者の大会参加における課題

全国大会及びブロック大会の参加資格は精神障害者保健福祉手帳所持者となっており、それに準ずる資格として自立支援医療受給者証所持者も対象になっていますが、将来的には精神障害者保健福祉手帳所持者に限定するよう現在協議がなされています。

令和9年度からユニフォーム規程が施行される予定であり、自治体代表としての参加がより意識づけられることになっています。

バレーボール競技規則（ルール）は日本バレーボール協会制定の6人制競技規則を基本としています。男女混合・ネットの高さ224cm・ソフトバレーボール球の使用が特徴であり、この点はしばらく改正予定はありません。卓球は日本卓球協会制定の競技規則を基本としています。

また、全国大会に参加する場合は最大6日間の宿泊遠征が必要となり、参加選手は社会性や心身の体力が求められます。

4 今後に向けて

全国障害者スポーツ大会における精神障害者の参加可能な競技はまだ2種目です。もっと競技種目が増えると、それだけ社会参加の幅が広がることでしょう。また、都道府県・指定都市によっては予選大会が開催されていない地域もあり、地域格差があります。

日本精神保健福祉連盟では精神障害者スポーツ事業の発展を目的に、各種情報発信・広報を行っています。ホームページでは関連情報を掲載し、X（旧ツイッター）では随時、精神障害者スポーツ情報を掲載しています。ぜひご覧いただき、精神障害者スポーツ事業推進にご協力いただきますようお願いいたします。



日本精神保健福祉連盟
ホームページ



日本精神保健福祉連盟
X

立命館大学生存学研究所と 精神保健医療福祉のアーカイブズ

立命館大学大学院先端総合学術研究科・准教授 **後藤 基行**

立命館大学生存学研究所は、病いや障害、老いなど、人びとの生活や実践に光を当てる研究拠点として2007年に設立され、2019年に現在の常設研究所(それ以前は生存学研究センター)となりました。研究所はアーカイブ事業も行っており、現場で生じてきた経験や記録を収集・保存し、研究・教育・社会発信へとつなげることを主要な目的としています。

書庫には、学術書や専門誌に加え、患者団体・障害者団体の報告書や機関紙、個人の手記や草稿、調査資料など、一般の図書館では保存されにくい資料が多数収蔵されています。精神疾患や精神障害に関わる資料も重要な一部を占めており、当事者団体が自らの活動や経験をまとめた資料、地域での実践を記録した報告なども含まれています。

また、資料の収集や保存措置、目録作成といった基礎的作業も進められています。これにより、未整理だった資料群についても構成や来歴が整理され、筆者のプロジェクトとも連携して将来的な利用や公開を見据えた基盤整備が行われています。

現在アーカイブ整備が新たに進められているものの一つが、精神科医であった故・寺嶋正吾先生(1925-2021)の旧蔵資料です。これらはご遺族から寄贈を

受けたもので、学会発表や論文の草稿、行政や司法に関わる検討メモ、海外出張時の記録、書簡類などが含まれています。完成された成果物だけでなく、思考の途中経過や検討の痕跡が残されている点に特徴があります。他にも、精神医療や精神保健福祉に長く関わった故・広田伊蘇夫先生(1935-2011)の蔵書についても、ご遺族より寄贈を受けており、専門的関心や問題意識を反映した蔵書として書庫資料の一部を構成しています。

生存学研究所では、こうした寄贈資料・蔵書を研究所の共有資源として位置づけ、収集するものと合わせて整理と活用を推進しようとしてきました。筆者は副所長としてアーカイブ事業を担当し、資料のデジタル化、市民や社会に開く際のあり方を検討するとともに、医療や福祉、病や障害に関わる歴史的資料・記録の保存と利活用に必要な倫理的配慮の基本方針を策定してきました。研究所書庫を、過去の実践に立ち戻りながら現在の課題を考えるための場として、今後も整備と活用を続けていく予定です。コラムのテーマはアーカイブズ訪問ですが、自己紹介を兼ねて、筆者の所属機関のアーカイブズを紹介させていただきました。

賛助会員 募集



会費

毎年4月1日から始まり、翌年3月31日までを事業年度としています。

【年会費】 個人 一口 5,000円以上
団体・法人 一口 30,000円以上

※ 年度途中のご入会につきましても当該年度分を納入して頂くことになります。

入会

「賛助会員入会申込書」に記入の上、FAX、郵送、メールにて直接連盟事務局へ届け出下さい。

入会については、当連盟理事会において承認を得た後、追ってご通知申し上げます。

〈編集後記〉

編集委員長となって2号目(通刊82号)の連盟だよりです。発行までにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。82号には、第72回精神保健福祉全国大会の精神保健福祉事業功労者表彰の受賞者が掲載されています。受賞者には40年あるいは50年以上の長きにわたって精神保健福祉に取り組まれた方も少なくありません。振り返ると1965(昭和40年)精神衛生法改正後の変化を知っている方は70歳以上、1987(昭和62)年の精神保健法への改正の頃に精神保健の現場に入った方も60歳を超える年齢になっています。時の流れの早さに驚くばかりです。精神保健研究所時代の恩師吉川武彦先生は一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会会報58号の挨拶「私たちはどこに向かうか」において、今、私たちは、そして社会はどこへ向かおうとしているのかと問いました。連盟だよりでも歴史を紡いでいきたいと思えます。(編集委員長 竹島正)

編集委員会

委員長 竹島 正

公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事

委員 中庭 良枝

一般社団法人日本精神科看護協会本部事務局本部長

島田 達洋

栃木県精神保健福祉センター所長

後藤 基行

立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授

齋藤 真哉

埼玉県立精神保健福祉センター精神保健福祉相談員

発行 2026年2月

発行者

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

会長 鹿島 晴雄

〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

Email : office-renmei@f-renmei.or.jp

HP : <http://www.f-renmei.or.jp/>



このたび、日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会は、新たにロゴマークを作成しました。これからも精神障がい者スポーツを盛り上げ、今後はさまざまな場面で使用してまいります。どうぞご注目下さい。